

在籍校名 筑紫野市立原田小学校
職・氏名 教諭 田熊 哲哉

研修報告書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

記

1 研修種別

D 福岡県教育センター研修員

2 主題研修について

研究主題 意識を切り替えることが難しいA児が、自ら行動を調整する姿を目指した自立活動の指導
－課題解決のための自己決定を取り入れた活動構成を通して－

(1) 研究のねらい

ア 課題の背景

(7) 対象児童の実態から

本研究の対象のA児は、自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍している小学校第○学年の児童である。読書では、長時間集中することができる。興味のある活動については意欲的に行動することができるが、途中で止められないことが多くあった。また、就学前の引継ぎ資料によると、一斉指示の聞き取りの困難さや、夢中になると次の行動に移ることが難しいということが報告されている。就学前の○才○か月の時期に受けたWISC-IVの結果（表1）では、実行機能との関わりが深いワーキングメモリーの発達に緩やかさがあった。実行機能とは、目標のための計画を立て、目標を達成するために自分の行動や思考、気持ちを調整する脳機能のことである。このことは、活動を途中で止められないというA児の行動とも深く関わりがあると推察される。そこで、A児が行動を調整するために、A児の言語理解の高さを生かして、自分の決めたことを他者に説明する等、目標や見通しをより具体的に認識できるようにすることは有効であると考えられる。また、下位検査を見ると算数が特に低くなっていることから、耳から取り入れた聴覚情報を一時的に記憶して保持しながら考えることに困難さがあることが分かる。そこで、活動や行動の見通しを視覚化して提示することは、記憶の保持を補う有効な支援になると考えられる。

(4) 試行授業（自立活動「チャレンジ！準備名人！」から）

行動観察を行う中で、A児は、折り紙を見付けて遊び始め、帰りの準備が始められずに下校が遅れてしまうことがあった。その後、A児自身も困っているが実行できないという内容の話をしてことから、試行授業では、A児が時間を守って帰りの準備を終えるための学習を行うことにした。そこで、まず、帰りの会スタート係という役割を任せることを伝えた。それは、行動観察の中で、A児が給食の挨拶係として、積極的に自分の役割を果たそうとしている姿を見取ることができたため、帰り

表1 心理検査の結果

※
WISC-IVの検査結果

の会で役割を任せるという動機付けを行うことで、A児は、帰りの準備を早く終わらせたいという意欲をもつことができると考えたからである。その結果、A児は「帰りの会スタート係として、準備が早くなりたい」と、意欲を高めることができた。次に、帰りの準備を終えるまでの残り時間を、常に意識できるように、タイマーや手順表を使って、A児が帰りの準備の行動の順番を自己決定するようにした。その結果、A児は、タイマーの時間を確かめながら帰りの準備を行い、その日の帰りの会では、係の活動を行うことができた。これらのことから、A児の興味関心に合わせた動機付けを行うことや自分に合った対応の仕方や行動の計画を自己決定することは、自ら行動を調整する上で有効だと考える。試行授業の後、A児の将来の自立に向けた次の課題の改善に取り組むことを考えた。その際、行動観察、心理検査、A児や学級担任からの聞き取り等から、A児の課題を抽出して自立活動の内容の六区分を基に整理し、課題関連図にまとめた(図1)。そして、実行機能の働きと関連して、「意識を切り替えることが難しい」ことが、A児の中心課題だと考えた。そこで、A児が「意識を切り替えることが難しい」という課題と向き合い、自ら行動を調整することができるように

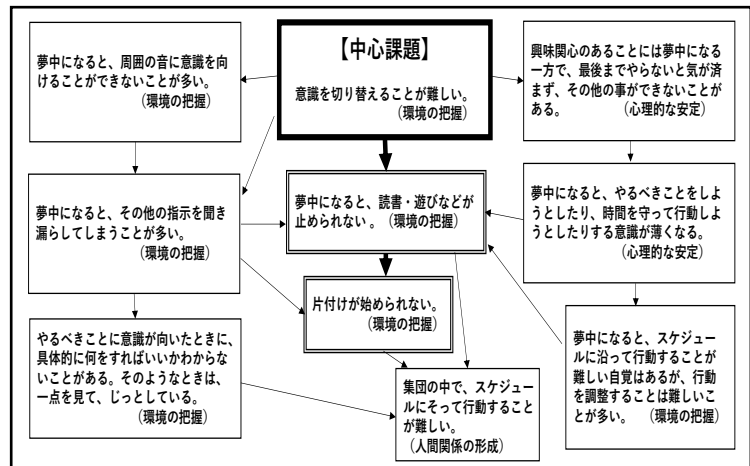


図1 課題関連図

発達年齢や興味関心に合わせた動機付けの下、課題解決のための自己決定を取り入れた活動構成を仕組むことは有効だと考えた。

イ 研究の目的

意識を切り替えることが難しいA児が、自ら行動を調整する姿を目指して、自立活動の指導において、課題解決のための自己決定を取り入れた活動構成の有効性を明らかにする。

(2) 研究の構想

ア 主題の説明

(7) 主題について

意識を切り替えるとは、今行っている行動を止めて、目的に沿った行動を始めようとするものである。自ら行動を調整するとは、目的に沿った行動ができるように、自分に合った対応の仕方を考え、見通しをもって行動することである。例えば、友達と運動場で一緒に遊ぶという約束を忘れないように、自分で遊ぶ時刻をメモ帳に書いたりタイマーを活用したりすること。そして、遊ぶ時刻に間に合うように、それまで行っていたことを止めて、運動場に行くことである。

(4) 副題について

課題とは、A児が、意識を切り替えて行動する際に、対応が必要な事柄でもう少しでできそうなことである。例えば、「活動の途中で片付けをする」等である。課題解決のための自己決定とは、A児が意識の切り替えの必要な場面での、自分に合った対応の仕方を考えたり、行動の計画を立てたりすることである。課題解決のための自己決定を取り入れた活動構成とは、A児が、興味の湧く教材と出会い、意識を切り替えるための対応の仕方を考えたり、行動の計画を立てたりして、「できるようになったこと」を、学校生活でも般化しようとする意欲を高めることができる活動を仕組むようにすることである。課題解決のための自己決定を取り入れた活動に、A児が主体的に取り組むことで、学校生活での意識の切り替えが必要な場面においても、自ら対応の仕方を考えて、見通しをもって行動を計画し、実際に行動することができるようになることを考える。そこで、目指す姿を以下のように設定する。

- | | |
|---|--------|
| ○ 教師の提示する課題を理解して、対応の仕方考えることができる。 | 【考える】 |
| ○ 自分の行動に見通しをもち、計画を立てることができる。 | 【計画する】 |
| ○ 自分の考えや計画に沿って行動するとともに、般化への意欲をもつことができる。 | 【行動する】 |

イ 研究の内容

本研究では、A児が自ら行動を調整する姿を目指して、自立活動の指導において、課題解決のための自己決定を取り入れた活動構成を位置付けるとともに、A児が主体的に学習に取り組むための動機付けを取り入れる（図2）。

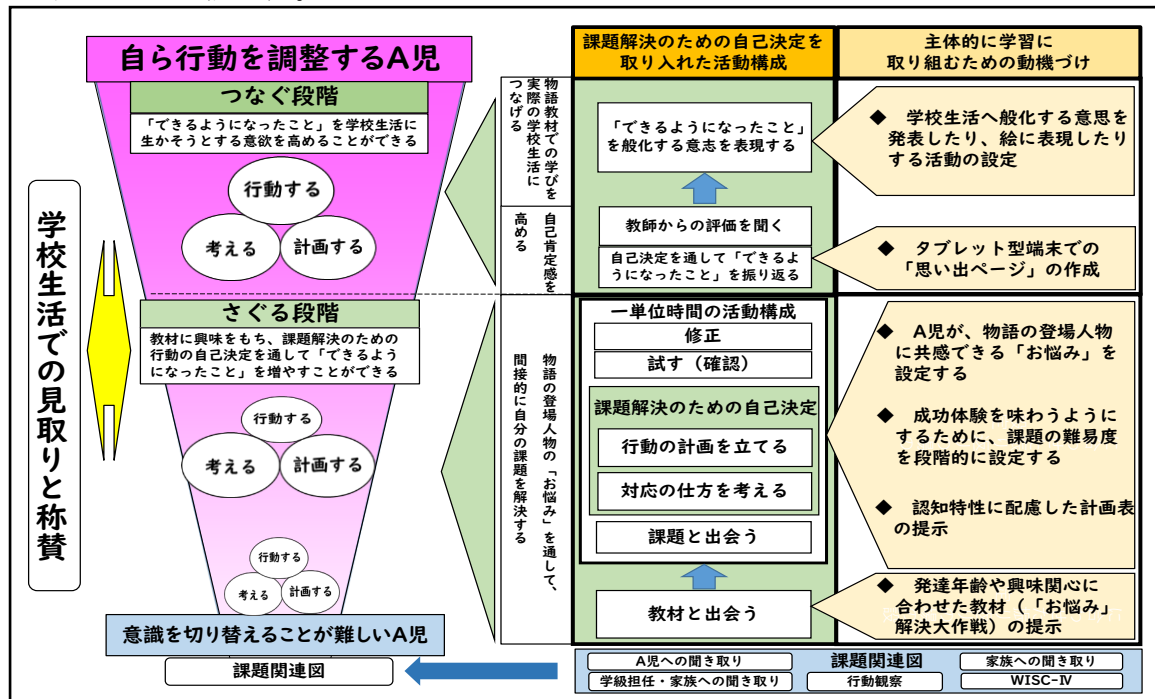
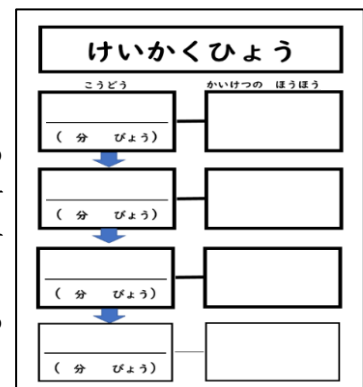


図2 研究構想図

「さぐる段階」では、A児が、教材に興味をもち、課題解決のための自己決定を通して、「できるようになったこと」を増やすことをねらいとしている。そこで、A児の発達年齢から自分の課題に直接向き合うことは難しいと考え、物語の登場人物の「お悩み」を通して間接的に自分の課題を解決するような活動を構成する。具体的には、まず、A児が教材と出会う活動を設定する。その際、A児の発達年齢や興味関心に合わせて教師が創作した『「お悩み」解決大作戦』という物語教材を提示し、学習の見通しがもてるようにするとともに、今後の学習への意欲を高める。次に、一単位時間の中で、意識の切り替えに関わる課題と出会い、対応の仕方を考えたり行動の計画を立てたりする等、課題解決のための自己決定を行い、実際に行動できるかどうか試して確認したり、試したことを修正したりする活動を設定する。その際、A児が、学校生活において、困難さを感じたことのある場面を提示する等、物語の登場人物の悩みに共感できるようにする。また、成功体験を味わうことができるように、課題の難易度を段階的に設定する。さらに、ワーキングメモリーの緩やかさ等、A児の認知特性に配慮して教師が作成した行動の計画を立てやすくするための計画表（資料1）を提示する。



資料1 計画表

「つなぐ段階」では、「できるようになったこと」を学校生活に生かそうとする意欲を高めることをねらいとしている。そこで、まず、A児の自己肯定感を高めるような活動を構成する。具体的には、自己決定を通して「できるようになったこと」を振り返るとともに、教師からの評価を聞く活動を設定する。その際、タブレット型端末で、登場人物の「お悩み」解決に取り組んでいる写真の中からA児が印象深い写真を選択して、「思い出ページ」を作成するようにする。最後に、物語教材での学びを実際の学校生活につなぐ活動を構成する。具体的には、できるようになったことを般化する意志を表現する活動を設定する。その際、A児の表現したい方法を選択できるように、学校生活への思いを言葉で発表したり、絵に表現したりする。

(3) 研究の実際

ア 実証授業の単元の目標及び指導計画

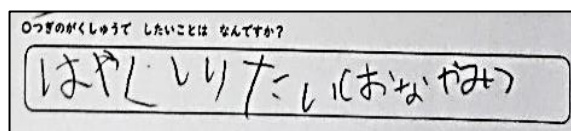
単元名	めいちゃんのおなやみかいけつ大さくせん				
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意識の切り替えが必要な場面での対応の仕方を考え、実行可能な行動の計画を立てることができる。 ○ 学校生活において、自分が考えた計画に沿って行動することができる。 ○ 登場人物の悩みを解決するために考えた計画を実行することを通して成就感を味わうことができる。 				
段階	さぐる				つなぐ
配時	一	二	三	四	五
目標	○ 物語の登場人物の成長を助けながら悩みを解決していくという学習の見通しをもつことができる。	○ 意識の切り替えが必要な場面での適切な対応の仕方を考えて行動を計画し自分が決めた計画に沿って行動することができる。			○ 行動を調整できた喜びを、味わうことができる。 ○ 学校生活で行動を調整しようとする意欲をもつことができる。
学習活動	○ A児によく似た特性のある物語の登場人物の、苦手な場面での行動の仕方を考える学習目標を立てる。	○ 前時の学校場面の行動を振り返る。 ○ 自分に合った計画表を作成し、ロールプレイをする。 ・読書、工作から次の行動に移ること			○ 「できるようになったこと」を話し合い、思い出ページを作成する。 ○ 学習の感想文を書いて、特別支援学級担任に発表する。

学校生活場面	昼休み→掃除	中休み(工作、読書)	学習準備
活動	○ 自立活動で試した内容を、授業後の学校生活場面で生かす。		

イ 実証授業の指導の実際と考察

(7) さぐる段階(第一時から第四時)

「さぐる段階」では、今後の課題解決に向けて、A児の学習への意欲が高まるように、発達年齢や興味関心に合わせて教師が創作した物語を提示した。そして、登場人物が抱える「お悩み」を、A児が解決するという学習の流れを伝えた。その際、作成したスライド資料で物語の登場人物の顔をモニターに大きく表示して、A児に「『お悩み』を解決して欲しいんだけど、お願いできる？」と依頼したところ、A児は、嬉しそうに引き受けた。そして、「(お悩みを)今聞きたい。」「次の授業はいつ？」と繰り返し発言した。また、「はやくしりたい(おなやみ)」と次の学習への思いを書いていた(資料2)。これは、A児が、「お悩み」解決を目標とする教材に出会って、強い興味をもっている様子である。このことから、発達年齢や興味関心に合わせて教師が創作した物語を提示したことは、A児が学習の見通しをもつとともに、学習への意欲を高める上で有効であったと考える。



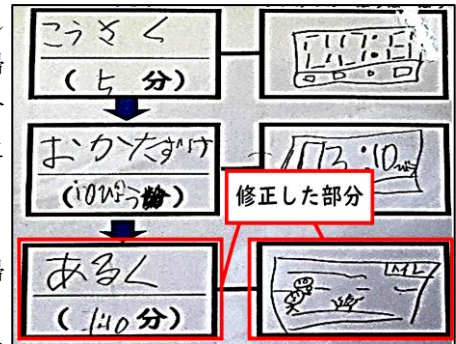
資料2 A児の次の学習への思い

表2 「お悩み」の内容と意識の切り替えに関わる課題

配時	「お悩み」の内容		難易度	意識の切り替えに関わる課題
第二時	①	昼休みの残りは7分。工作はしたいけど掃除には、遅れたくない。いったいどうしたらいいの？	易 ↓ 難	・活動の途中で片付けをする
第三時	②	今から10分間の中休みです。中休みは、工作と読書をしたかったです。全部やっていたら、夢中になって、算数の準備や手洗いのことを忘れてできませんでした。やりたいことはたくさんあるけど、算数の準備や手洗いもしたい。こんなときどうすればいいの？		・「やりたいこと」「やるべきこと」等、複数あっても、次にすることを忘れずに行動する
第四時	③	朝、先生が、「10時20分にはうんどう場に集合してください。」と話していました。そして、中休みになりました。めいちゃんは、教室で工作をしています。でも、工作に夢中になって、10時20分に運動場で並ぶのをすっかり忘れていました。忘れずに時間に運動場に行って並びたい。こんなときどうすればいいの？		・時間がたっても、事前に教師が連絡した予定を基に、行動する

第二時から第四時では、物語の登場人物の「お悩み」を解決する学習に取り組んだ。ここでの「お悩み」とは、物語の主人公から相談されるもので、A児の意識の切り替えに関わる課題を解決するために教師が創作した問いのことである。「お悩み」の内容、意識の切り替えに関わる課題について表2に示す。「お悩み」の内容は、A児が物語の登場人物に共感できるように、A児自身が、学校生活で困難さを感じたことがある場面を取り上げた。また、A児が、成功体験を味わうことができるように、各時間の課題の難易度を段階的に設定した。第二時では、「活動の途中で片付けをする」という課題を解決するための「お悩み①」を提示した。このとき、教師が、登場人物の気持ちが分かるか尋ねると、A児は「うん」と発言し、素直に共感している様子が分かった。まず、1回目のロールプレイ

では、課題解決のためにタイマーを活用（対応の仕方の決定）しながら、工作を途中で止めることができた。しかし、A児は、掃除区域の移動のことまでは考えていなかったため、時間に間に合わなかった。そこで、教師がA児の認知特性に配慮して作成した計画表の使用を促したところ、A児は、資料3のように、「あるく（1分）」を計画表に記入した（行動の計画の修正）。次に、2回目のロールプレイでは、A児は、計画に沿って行動し、時間内に掃除区域に移動することができた。これは、1回目のロールプレイでの経験から計画表を作成する中で、A児が、行動の計画を修正した姿である（考える姿、計画する姿）。このことから、A児の認知特性に配慮して作成した計画表を提示したことは、A児が計画の改善点に気付き、行動の計画を修正する上で有効であったと考える。第三時では、「『やりたいこと』『やるべきこと』等、複数あっても次にすることを忘れずに行動する」という課題を解決するための「お悩み②」を提示した。A児は、「お悩み②」を聞くと、すぐに、「裏紙、貸して。」と、白紙を要望し（対応の仕方の決定）、計画表を作成し始め、「読書4分、工作5分、手洗い30秒、準備30秒」と、自分なりの計画表を作成した（行動の計画）。ロールプレイでは、計画表を基にタイマーを活用しながら（対応の仕方の決定）、数秒遅れたものの、時間内に、読書、工作、手洗い、準備を全て行うことができた。その後、ロールプレイの様子をタブレット型端末で振り返った。すると、A児は、数秒遅れたのは、片付けの時間を、行動の計画に入れていなかったからだと気付いた。そして、片付けの時間が1分間必要と考えて、A児が、初めに書いた計画表の、「こうさく5分」の部分で、「5-1=4かたづけ」と付加し、「こうさく4分」と資料4のように修正した（行動の計画の修正）。これは、A児が白紙を活用して、自ら計画表を書こうとするとともに、自分の改善点に気付いて、行動の計画を修正した姿である（考える姿、計画する姿）。第四時では、「時間がたっても、事前に教師が連絡した予定を基に行動する」という課題を解決するための「お悩み③」を提示した。このとき、A児は課題解決の方法として目覚まし時計を求めたが、教室には無いため、教師がメモ帳やホワイトボード等、身近にある複数の道具をA児に提示した（資料5）。すると、A児はタイマーとメモ帳を選んだ（対応の仕方の決定）。ロールプレイの際には、教師の連絡した内容をメモ帳に書き写すことができた。また、メモ帳の内容に沿って行動する際、何度もタイマーの残り時間を確認していた。これは、A児が、大事な情報を忘れないように、自分なりにメモ帳やタイマーを活用して行動した姿である（考える姿、行動する姿）。これらのことから、A児の発達年齢や興味関心に合わせた物語教材の「お悩み」解決を通して、間接的に課題解決に取り組めるようにしたり、段階的に課題を変化させ成功体験を味わうことができるようにしたりしたことは、意識の切り替えが必要な場面で「できるようになったこと」を増やす上で有効であったと考える。



資料3 A児が記入した計画表

資料4は、手書きの計画表の写し。左側に「自分なりの計画表」という赤いラベルが貼られている。右側に「付加した部分」という赤いラベルが貼られている。修正内容は「5-1=4かたづけ」という算式が追加されている。また、「お悩み②」という課題が記載されている。

資料4 片付けを付加した計画表



資料5 身近にある道具の提示

（イ）つなぐ段階（第五時）
「つなぐ段階」では、教師と一緒に、第二時から第四時での課題解決のための自己決定を通して「できるようになったこと」を振り返る思い出ページを作成したり、教師からの評価を聞いたり、「できるようになったこと」を般化する意志を表現したりする活動を設定した。思い出ページを作成する活動では、A児がタブレット型端末を操作して、各時間の学習に関わる印象深い写真を1枚ずつ選択し、思い出ページのデータに貼り付けることができた。A児は、タブレット型端末を積極的に操作しながら、「10枚選びたい」と発言する等、意欲的に写真を選択した。完成した思い出ページを印刷する際

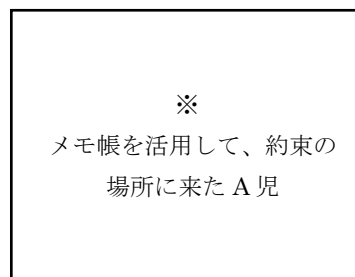
は、でき上がるのをとても嬉しそうに待っていた。教師からの評価をA児が聞く活動では、教師の称賛や「できるようになったこと」を学校生活でも生かしてほしいという願いを聞いて、A児は「うん。」と照れた様子で答えた。般化する意志を表現する活動では、A児は、照れて、表現することができなかつたため、授業後に絵を描くように促したところ、A児は、山の頂上を登って旗を持っている自分を描き、「がっこうでもがんば」という言葉を書いた(資料6)。これは、A児が、「できるようになったこと」を学校生活に生かそうとする意欲の高まりであると解釈することができる(行動する姿)。これらのことから、「つなぐ段階」において、A児が、「できるようになったこと」を振り返ったり、教師からの称賛や、般化への願い等、学習の評価を聞いたりしたことは、「できるようになったこと」を、学校生活に生かそうとする意欲を高める上で有効であったと考える。



資料6 A児が描いた絵

(4) 全体考察

第三時と第四時の学習後に、学校生活におけるA児の行動を調整する姿を見取った。第三時の学習を行った中休みに、教師が意図的にA児の好きな折り紙を渡した。すると、A児は、折り紙を始めたものの、途中で何度も時計を見て、チャイムが鳴る2分前に片付けを始め、三時間目の時刻に間に合うように移動することができた。第四時の後には、教師とA児とで昼休みに遊ぶ約束をした。約束をする際、教師が、「給食を食べて遊べるようになったら迎えに来てください。」「今からたくさん話します。先生がいる場所とその時刻を言いますね。」と伝えた。すると、A児は、「たくさん話します。」の言葉に反応して、急いでメモ帳を取り出して、教師の話した内容を自分なりに記録した。その結果、A児は、昼休みに伝えた通りの時刻と場所に来ることができた(資料7)。これらは、A児が、「お悩み」解決を通して、「できるようになったこと」を学校生活にも生かした姿である(行動する姿)。



資料7 メモ帳を活用するA児

各学習後に、学習プリントの振り返りで、A児が、「今日の学習は楽しかったですか?」という問いに答えるようにした。すると、全ての時間で、「とても楽しかった」を選択したことから、A児が教材に興味をもち、高い意欲で学習に臨んだことが分かる。第五時の学習後に、学習のまとめアンケートを行った。「学習を通してどんなことができるようになったか。」という問いに対して、A児は、「メモを取る、計画表を書く、片付けをする、次のことを考える、忘れない」を選択していた。また、「できるようになったことを使っていきたいか。」という般化する意志についての問いに対して、A児は、「とても使いたい」を選択した。これは、A児が、「できるようになったこと」を意識できており、般化する意志を十分にもつことができたことを表していると考えられる。これらのことから、課題解決のための自己決定を取り入れた活動構成を行ったことは、A児が学校生活でも自ら行動を調整する姿を目指す上で有効であったと考える。

(5) 研究の成果と今後の課題

ア 研究の成果

- A児が間接的に自分の困難さに向き合えるような物語教材を提示したり、段階的に課題を変化させたり、「できるようになったこと」を振り返ったりする活動を設定したことは、A児が、主体的に学習に取り組む上で有効であった。
- 課題解決のための自己決定を取り入れた活動構成を行ったことは、「考える」「計画する」「行動する」等、自ら行動を調整する姿を引き出す上で有効であった。

イ 今後の課題

- 般化が継続し定着するためには、教師による見守りと称賛を丁寧につけていく必要がある。

<参考文献>

- ・ 長澤 正樹(2006) 『LD・ADHD〈ひとりのできる力〉を育てる』 pp. 86-92 川島書店
- ・ 河村 暁(2021) 『教室の中のワーキングメモリ』 p. 53 明治図書出版

【添付資料】

○ A児の発達年齢や興味関心に合わせて教師が創作した物語教材「さぐる段階」(第二時)

	スライド	教師の説明
1		<p>○ めいちゃんは、小学校2年生です。 読書が好きで、好きなことは、どんどんやります。</p>
2		<p>○ でも、めいちゃんには、「お悩み」があります。</p>
3		<p>○ ある昼休み。こんなことがありました。残り時間は7分です。めいちゃんは、今、とっても気になっている、工作がしたいと思いました。</p>
4		<p>○ すると、工作に夢中になって、掃除に遅れて、先生に注意されてしまいました。工作もしたいけど、掃除にも遅れたくない。こんなとき、いったいどうしたらいいの？Aちゃん教えて。</p>
5		<p>○ それでは、めいちゃんのお悩みを解決するための方法を考えてみよう。</p>
6		<p>○ 今日は、先生が、新しいお助けアイテムの計画表を用意しました。使い方を説明します。例えば、読書を計画するときは、「読書3分」と書きましたか。</p>
<p>6の後、対応の仕方を考えたり、行動の計画を立てたりする活動を行う。</p>		
7		<p>○ Aちゃんが、考えてくれた方法が、本当にできるかめいちゃんに教える前に、やってみましょう。</p>
<p>7の後、ロールプレイで確かめたり、確かめたことを修正したりする活動を行う。</p>		
8		<p>○ Aちゃん、ありがとう。お悩み解決。次回も「お悩み」もよろしくね。</p>

○ 「さぐる段階」 第三時の学習プリントと振り返り

The image shows a hand-drawn learning printout titled 'めいちゃんのおなやみ 大きくせん' (Mei-chan's Homework Big Review). It includes a date field, a section for '悩みの内容' (Content of worries) with a list of tasks like '作業' (work) and '練習' (practice), and a 'かいつほうほう' (Time management) section with 'タイマー' (timer) and '音 (ビースト)' (sound). Below this is a '振り返り' (Reflection) section with questions about the day's learning and a 'かんそう' (Thank you) section with a drawing of a cat.

お悩みの内容を視覚的に提示 (Presenting the content of worries visually)

課題解決のために自己決定した内容を記入する欄 (A column for recording self-determined content for problem-solving)

課題解決のための行動のポイント (Key points for action for problem-solving)

学習の振り返り (Learning reflection)

○ 「できるようになったこと」を振り返るための思い出ページ

The image shows a '思い出ページ' (Memory Page) for homework. It features a central illustration of a girl with a starburst saying 'おなやみ かいつっ!!' (Homework, time up!!). The page is divided into four numbered steps:

- ① つぎのことを考えて とうどうする (Think about the next thing and do it)
- ② ※ 「お悩み①」を解決して喜ぶA児 (A child solves the worry and is happy)
- ① あたまタイマー (Head timer)
- ② ※ タイマーを見て、残り時間を確認するA児 (A child checks the timer and remaining time)
- ① わすれないために (To not forget)
- ② ※ 学習の記念に、ファイルの表紙に絵を描くA児 (A child draws a picture on the file cover as a memory)

①各学習の振り返りの際に、A児が、学習プリントに書いていた「大事な言葉」を、教師が「思い出ページ」に提示する。
②A児は、それを手掛かりにタブレット型端末を操作して思い出の写真を選んで貼る。